

問題行動の未然防止に向けて

～自尊感情と規範意識を育む人間関係づくり～

総合支援課 小中学校班・高校Ⅰ班・高校Ⅱ班

研究の概要

「日々児童生徒と真摯に向き合っているが、なかなか児童生徒の問題行動が減らない」、「同じ児童生徒が何度も繰り返し問題行動を起こしてしまう」、このようなことを経験している先生方は多いのではないのでしょうか。なぜこのようなことが起きてしまうのでしょうか。それは、それまでの指導が児童生徒の「表れ」に対しての指導が中心で、児童生徒の内面にまで働きかけるものになっていなかったからだと考えられます。別の言葉で言い換えれば、何か事が起きてからの後追いの指導が中心で、予防的、開発的な視点に立った児童生徒の「内面の成長を促す指導」に重きを置くことができなかつたとも言えます。

そこで私たちは児童生徒の「内面」にまで働きかけ、そのことで児童生徒の「表れ」をも変えていくことができる、問題行動の未然防止プログラムを提案することを目指して3年間研究に取り組んできました。その上で重要視してきたことが、サブタイトルにもある、良好な人間関係づくりを通して自尊感情と規範意識を育むということです。つまり、本研究の仮説にもなっている言葉ですが、児童生徒の自尊感情と規範意識を育むための良好な人間関係づくりに意図的に取り組むことこそが問題行動の未然防止に有効な手段であるということを検証するための研究なのです。

研究を進めるにあたっては、静岡県の学校の実態を正しく捉えるために政令市を除く県下全ての公立小中高等学校にアンケートを実施し、取材・実践協力校として小中高各2校ずつ計六つの学校、先生方にご協力をいただきました。そして完成したプログラムが当センターのホームページにアップロードされています。ぜひ、多くの学校で多くの先生方に使っていただき、問題行動の未然防止に向けた、静岡県の児童生徒の健全な成長を促す一助としていただけることを願っています。

**キーワード：問題行動の未然防止、自尊感情、規範意識
プログラム(笑顔・活力・けじめ・思いやり・清潔・整然)**

目次

I	主題設定の理由	1
1	研究の背景	1
2	研究の目的	1
II	研究の仮説	2
III	研究の方法	2
IV	研究の内容	2
1	生徒指導実態調査アンケートの作成及び分析（平成 24 年度）	2
(1)	作成の過程	3
(2)	アンケートの結果	4
2	アンケート結果の分析	6
(1)	「強み群」について	6
(2)	「弱み群」について	6
(3)	アンケート結果全体を通して	6
3	取材協力校の選定	7
4	取材協力校への訪問、聞き取り調査及び情報の整理、分析（平成 25 年度）	8
5	仮プログラムの作成	10
(1)	プログラムの基本的な押さえ	10
(2)	プログラムの内容	10
6	実践協力校の選定	11
7	実践協力校への訪問、協力依頼（平成 26 年度）	11
(1)	プログラムの使用について	12
(2)	児童生徒用アンケートの実施について	12
(3)	教師用アンケートの実施について	12
8	実践協力校による実践及び成果の検証	12
(1)	各校の実践と児童生徒用アンケートの分析	12
(2)	教師用アンケート結果から	20
V	研究のまとめ	22
1	研究の成果	22
2	今後の課題	23
	注釈	23
	参考文献	23
	問題行動未然防止プログラムへのリンク先	24
	研究組織	24

問題行動の未然防止に向けて

～自尊感情と規範意識を育む人間関係づくり～

総合支援課 小中学校班・高校Ⅰ班・高校Ⅱ班

I 主題設定の理由

1 研究の背景

昭和 63 年、当時の文部省が発行した生徒指導資料では、生徒指導の目的は「一人一人の生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力、態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導・援助であり、個々の生徒の自己指導力(注1)の育成を図ることにある」と示された。また、平成 20 年の学習指導要領の改訂に伴い、小学校の場合、総則の「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項(3)」に「日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること」が、中学校、高等学校の場合も同じく、「教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、生徒理解を深め、生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるよう、生徒指導の充実を図ること」が重要であると示された。これらを踏まえ、私たちは生徒指導を行う上で、このような基本的な考え方や立ち位置を押し量りつつ、日々の教育活動に反映させていくことが求められている。

しかし、実際の学校現場はどうだろうか。近年、高度情報化や都市化の進展、少子化の進行など社会が急速に変化する中で、児童生徒の価値観の多様化や規範意識の低下、自尊感情の低さなどが指摘され、学校における生徒指導上の課題は多岐に渡るものになっている。静岡県内の公立小中学校の「平成 25 年度児童生徒の問題行動等生徒指導の諸問題に関する調査結果」を見ても、暴力行為の件数は小学校、中学校とも年々増加の一途をたどっている。また、いじめの認知件数や不登校児童生徒数も高水準で推移しており、多くの教員がこれらの課題や顕在化した問題行動の対応に追われ、疲弊するなど、問題行動を後追いするだけの限定的で消極的な生徒指導に追われ、未然防止に対する有効な策が講じられていないように感じる。

このような現状を鑑みて、今こそ問題行動の未然防止に力を注ぐ必要があると考え、本主題を設定した。

2 研究の目的

前述の通り、生徒指導の目的は一人一人の児童生徒の個性の伸長や自己指導力の育成であり、児童生徒の内面の成長を促す指導が中心でなければならないはずである。そして、その指導こそが問題行動の未然防止にも繋がっていくと考える。そのキーワードを「自尊感情」と「規範意識」と押さえ、自尊感情を「自分を価値ある存在として尊重する感情」、規範意識を「自分の行動に責任を持つとする意識」と定義づけた。また、「静岡県版人間関係づくりプログラム」(注2)の作成委員長である岡田弘東京聖栄大学教授はその巻頭で「人間関係づくりのスキルを身に付けた子どもたちは、お互いの信頼関係が高まりやすく

なり、自己受容しやすくなり、自尊感情や自己効力感が高まると言われています」と述べている。

そこで本研究では、自尊感情と規範意識を育む手段として人間関係づくりに着目し、人間関係づくりを通して児童生徒の自尊感情や規範意識を育てていると考えられる学校の特色ある取組を探り、そこにある共通の考え方や意識、手立てをベースとした問題行動未然防止プログラム（以下「プログラム」という）を作成し、後追いではなく、未然防止という先手の生徒指導の視点に立ったプログラムとして、県内小中高等学校全ての校種を対象とした先生方に提言することを目的とする。

II 研究の仮説

前章で述べてきた背景や目的を踏まえ、本研究の仮説を以下のように設定し、仮説の検証から得た成果を前述のプログラムとして提案する。

自尊感情と規範意識を育むための良好な人間関係づくりに意図的に取り組んでいる学校は問題行動の未然防止に成果を挙げている。

III 研究の方法

研究の期間を平成 24 年度から 26 年度の 3 年間とし、最終年度の 26 年度末にプログラムを当センターホームページにアップロードすることを念頭に置き研究を進めた。以下に年度ごとの取組を示す。

1 平成 24 年度

- (1) 生徒指導実態調査アンケートの作成及び調査の実施
- (2) 同アンケートの結果の分析
- (3) 取材協力校の選定

2 平成 25 年度

- (1) 取材協力校への訪問、聞き取り調査及び情報の整理、分析
- (2) 仮プログラムの作成
- (3) 実践協力校の選定

3 平成 26 年度

- (1) 実践協力校への訪問、協力依頼
- (2) 実践協力校による実践及び成果の検証
- (3) プログラムの修正及びホームページへのアップロード

IV 研究の内容

1 生徒指導実態調査アンケートの作成及び分析（平成 24 年度）

それぞれの学校が自校の児童生徒の強み、弱みをどのように捉えているかを問い、それらを集計することによって、静岡県の児童生徒の実態をつかむこと及び、学校ごとに行っている児童生徒の成長を促す特色ある取組や手立てを探ることの 2 点を目的としてアンケート調査を実施した。なお、アンケート調査は政令市を除いた県下全ての公立小中高等学校 593 校に依頼した。また、回答においては管理職や生徒指導主事・主任といった自校

の児童生徒の様子を幅広く見つめることができる立場の方をお願いした。

(1) 作成の過程

作成にあたり、設問をどのように設定するかについて時間をかけて検討した。まず、生徒指導が機能している安定した学校の児童生徒の姿を具体的に出し合い、共有し類型化しながらまとめていった。その過程の中で、当初はなかった六つのキーワード(笑顔・活力・けじめ・思いやり・清潔・整然)が生まれ、それぞれのキーワードに対し、「こうありたい」という児童生徒の姿を二つずつ当てはめた。さらに笑顔と活力を「人」、けじめと思いやりを「心」、清潔と整然を「場」として大きく括ることとした。これらの12の設問における児童生徒の姿が自校で見られるかについて、「A:そう思う」から「D:そう思わない」までの4段階で評価してもらうとともに、各校が特に力を入れて取り組んでいる内容については具体的な記述を求めた。実際に送付したアンケートにキーワードによるカテゴリー分けを載せたものを下に示す(表1)。

表1 カテゴリー分けをした生徒指導の取組に関するアンケート

学校名		立	(小・中)学校
<p>※ 以下の項目についてそれぞれ取り組まれていることと思いますが、貴校の現在の状況についてお聞かせいただきたいと思ひます。</p> <p>1～12の項目について、A～Dのいずれかに○をつけてください。</p> <p>A そう思う B どちらかといえばそう思う C どちらかといえばそう思わない D そう思わない</p>			
人	笑 顔	1 児童生徒は、笑顔に溢れ生き生きと生活している。	A B C D
		2 児童生徒は、誰に対しても爽やかな挨拶をしている。	A B C D
	活 力	3 児童生徒は、授業に集中し主体的に取り組んでいる。	A B C D
		4 児童生徒は、授業以外の教育活動に主体的に取り組んでいる。	A B C D
心	け じ め	5 児童生徒は、授業時間と休み時間をきちんと区別している。	A B C D
		6 児童生徒は、進んでルールを守っている。	A B C D
	思 い や り	7 児童生徒は、お互いを認め合い安心して学んでいる。	A B C D
		8 児童生徒は、周りの人に対して思いやりのある行動をとっている。	A B C D
場	清 潔	9 児童生徒は、みんなが使う場所を清潔に保っている。	A B C D
		10 児童生徒は、清潔感があり身なりが整っている。	A B C D
	整 然	11 児童生徒は、式典や集会に整然と臨んでいる。	A B C D
		12 児童生徒は、落ち着いた学習に取り組めるよう、校内の環境を整えている。	A B C D
<p>*上記1～12の中で、特に力を入れて取り組んでいる内容について、具体的にお書きください。</p>			

(2) アンケートの結果

各校から送られてきたアンケートをそれぞれの校種別と小中高全体をまとめたものに分けて集計し、結果の比較を行った。(表2から表5)。

表2 アンケート集計結果：小学校

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	69.4%	18.8%	34.4%	48.8%	63.8%	28.1%	37.2%	23.1%	33.4%	43.8%	80.3%	40.8%
B	30.6%	68.4%	61.9%	49.1%	34.4%	67.2%	60.6%	74.1%	59.7%	54.7%	19.4%	56.1%
C	0.0%	12.5%	3.8%	2.2%	1.6%	4.4%	2.2%	2.8%	6.6%	1.6%	0.3%	2.8%
D	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【小学校】

「そう思う」が多かった設問

- ① 11 児童は、式典や集会に整然と臨んでいる。(80.3%)
- ② 1 児童は、笑顔に溢れ生き生きと生活している。(69.4%)
- ③ 5 児童は、授業時間と休み時間をきちんと区別している。(63.8%)

「そう思う」が少なかった設問

- ① 2 児童は、誰に対しても爽やかな挨拶をしている。(18.8%)
- ② 8 児童は、周りの人に対して思いやりのある行動をとっている。(23.1%)
- ③ 6 児童は、進んでルールを守っている。(28.1%)

表3 アンケート集計結果：中学校

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	48.8%	20.0%	30.6%	60.0%	58.2%	25.9%	48.8%	48.8%	48.8%	39.4%	80.0%	37.9%
B	51.2%	67.1%	63.5%	38.2%	36.5%	63.5%	51.2%	51.2%	51.2%	51.2%	17.1%	53.3%
C	0.0%	12.9%	5.9%	1.8%	5.3%	10.6%	0.0%	0.0%	0.0%	9.4%	2.9%	8.9%
D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【中学校】

「そう思う」が多かった設問

- ① 11 生徒は、式典や集会に整然と臨んでいる。(80.0%)
- ② 4 生徒は、授業以外の教育活動に主体的に取り組んでいる。(60.0%)
- ③ 5 生徒は、授業時間と休み時間をきちんと区別している。(58.2%)

「そう思う」が少なかった設問

- ① 2 生徒は、誰に対しても爽やかな挨拶をしている。(20.0%)
- ② 6 生徒は、進んでルールを守っている。(25.9%)
- ③ 3 生徒は、授業に集中し主体的に取り組んでいる。(30.6%)

表4 アンケート集計結果：高等学校

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	43.4%	39.4%	23.2%	41.4%	56.6%	10.1%	38.4%	26.3%	17.2%	36.4%	73.7%	23.2%
B	54.5%	50.5%	56.6%	51.5%	31.3%	70.7%	53.5%	64.6%	64.6%	51.5%	19.2%	65.7%
C	2.0%	10.1%	18.2%	7.1%	11.1%	19.2%	8.1%	9.1%	17.2%	10.1%	6.1%	11.1%
D	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	2.0%	1.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【高等学校】

「そう思う」が多かった設問

- ① 11 生徒は、式典や集会に整然と臨んでいる。(73.7%)
- ② 5 生徒は、授業時間と休み時間をきちんと区別している。(56.6%)
- ③ 1 生徒は、笑顔に溢れ生き生きと生活している。(43.4%)

「そう思う」が少なかった設問

- ① 6 生徒は、進んでルールを守っている。(10.1%)
- ② 9 生徒は、みんなが使う場所を清潔に保っている。(17.2%)
- ③ 3 生徒は、授業に集中し主体的に取り組んでいる。(23.2%)
- ③ 12 生徒は、落ち着いて学習に取り組めるよう、校内の環境を整えている。(23.2%)

表5 アンケート集計結果：小中高等学校合計

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	58.7%	22.4%	31.5%	50.6%	60.9%	24.3%	35.2%	22.6%	28.2%	41.1%	78.9%	36.7%
B	41.0%	64.9%	61.4%	46.5%	34.6%	66.9%	61.2%	72.0%	60.0%	53.3%	18.9%	57.2%
C	0.3%	12.5%	6.7%	2.9%	4.2%	8.6%	3.5%	5.4%	11.5%	5.2%	2.0%	5.9%
D	0.0%	0.2%	0.3%	0.0%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【小中高等学校合計】

「そう思う」が多かった設問

- ① 11 児童生徒は、式典や集会に整然と臨んでいる。(78.9%)
- ② 5 児童生徒は、授業時間と休み時間をきちんと区別している。(60.9%)
- ③ 1 児童生徒は、笑顔に溢れ生き生きと生活している。(58.7%)

「そう思う」が少なかった設問

- ① 2 児童生徒は、誰に対しても爽やかな挨拶をしている。(22.4%)
- ② 8 児童生徒は、周りの人に対して思いやりのある行動をとっている。(22.6%)
- ③ 6 児童生徒は、進んでルールを守っている。(24.3%)

2 アンケート結果の分析

静岡県の児童生徒の現状を探るという点を、静岡県の児童生徒の強みと弱みを探るという視点に置き換え、12 の設問の「A：そう思う」の割合に着目した。「A：そう思う」と回答した割合が高かった設問を「強み群」、割合が低かった設問を「弱み群」とし、それぞれの校種ごとに傾向を分析した。

(1) 「強み群」について

小学校と高等学校の上位三つの回答傾向は順番こそ違いが全く同じであった。(1・5・11)。中学校は2番目に4の「授業以外の教育活動に主体的に取り組んでいる」が入ってくるが、これは部活動や委員会活動が活発に行われている中学校の特性によるものだと考えられる。中学校で2番目に多いこの4の設問は、小学校でも高等学校でも4番目に多かった。また、小学校と高等学校で共通して上位三つに入っている1も中学校で4番目に多い項目となっている。これらのことから、静岡県の児童生徒の強みを、「笑顔に溢れ生き生きと生活している」、「授業以外の教育活動に主体的に取り組んでいる」、「授業時間と休み時間をきちんと区別している」、「式典や集会に整然と臨んでいる」の四つと押さえた。

(2) 「弱み群」について

全ての校種で上位三つに入っているものは6の「進んでルールを守っている」であった。さらにこの設問は小学校で3番目、中学校で2番目、高等学校で1番目と成長が進むにつれて評価が低くなっており、規範意識は静岡県の児童生徒の一番の課題であると認識した。また、小中学校では2の「誰に対しても爽やかな挨拶をしている」が、小学校と高等学校では9の「みんなが使う場所を清潔に保っている」が、中学校と高等学校では3の「授業に集中し主体的に取り組んでいる」が共通して低い割合となっている。

(3) アンケート結果全体を通して

分析前は校種によって回答に差や特色が表れるであろうと考えていたが、実際は、各校種で共通するものが多く、特に「強み群」では顕著な傾向が見られた。また、「弱み群」でもいくつか共通する傾向が見られるなど、結果的に県内児童生徒には、校種を問わず共通した強み（良さ）や弱み（課題）が見られることがはっきりした。

また、アンケートをキーワードごとに見ていくと（表1参照）、例えば「けじめ」でいえば、5の「授業時間と休み時間をきちんと区別している」は全ての校種で強みと捉えられていたが、6の「進んでルールを守っている」は全ての校種で弱みとなっている。

「笑顔」では1の「笑顔に溢れ生き生きと生活している」はどの校種でも強みと捉えられている傾向にあったが、2の「誰に対しても爽やかな挨拶をしている」は弱みとして捉えられているなど、同じキーワード内の設問でも、全く反対の印象で捉えられている現状があることが分かった。これは、例えば「笑顔」の2の設問には「誰に対しても」や、「けじめ」の6の設問には「進んで」という条件がついているために自信を持って強みと回答できなかったのではないかと考えた。これは、中学校と高等学校の弱みとして捉えられている3番の「授業に集中し主体的に取り組んでいる」においても同様である。これらは、児童生徒の自発性や主体性に関わる部分であり、プログラムを作成していくに当たり、このような自発性や主体性を育むことを視点の一つとして盛り込んでいく必要があることや、特色ある取組や手立てを行っている学校の実践事例の紹介等に留

まることなく、自尊感情と規範意識を中心に、児童生徒の内面を育てるプログラムを作成していくことを班内で共通理解した。

3 取材協力校の選定

プログラム作成のための取材協力校の選定にあたり、当初はアンケートに対し「Aそう思う」と回答した数の多い学校の中から選定していくことを考えた。しかし、アンケート集計の分析を進める中で、静岡県の子童生徒の強み、弱みをはじめとする実態が浮き彫りとなり、それが校種を問わず、共通している部分が多かったことから、スポットを静岡県の子童生徒の弱みの部分に当てることとした。それぞれの校種で弱みと捉えている設問に対し、「Aそう思う」と肯定的に捉えている学校と、その学校の特色ある取組を探ることで各学校が弱みと捉えている実態に対して有効なプログラムを提案できるのではないかと考えた。

そこで、小中高等学校それぞれ「弱み群」と捉えた設問にAをつけている学校を全て洗い出し、特色のある取組とともにまとめていった。その際、学校の規模を確認するための全校の子童生徒数と、その取組が児童生徒の自尊感情又は規範意識のいずれを育むことに有効なものであるかを推察し、付記することとした。(表6)

表6 特色ある取組のまとめ小学校の例

アンケートの設問2, 6, 8, 9の4つすべてにAを付けた学校

- 朝全員が職員室にあいさつに来る。(小学校 **89**)
- 委員会で友達の良いところを見つけ(小学校 **551**)**自尊**○「あたたかな心の配達人」(小学校 **88**)

そのうち3つにAを付けた学校

- 生活4項目(小学校 **761**)**規範**
- 中学と連携「あいさつ運動」(小学校 **392**)**自尊**
- 地域であいさつカード(小学校 **53**)
- ピアサポート活動(小学校 **535**)
- 「かがやきづくりコーナー」(小学校 **342**)**自尊**
- 自己表現、他者理解(小学校 **796**)**自尊**

そのうち2つにAを付けた学校

- 「だいじ そうじ」(小学校 **193**)
- 「ルール、マナーについて児童会とタイアップ 自治的な取組」(小学校 **542**)**規範**
- 全校で「ほかほか言葉(おもいやり言葉)を見つけ」(小学校 **61**)
- 「ピアサポート活動」「あいさつ地域全体」(小学校 **766**)
- 「良さ がんばりを見つけ」(小学校 **78**)
- 「地域、保護者、学校が一体となり取組む、心通う挨拶運動」(小学校 **138**)
- 3つのあたりまえ「あいさつは誰でも、そうじは大事、親切だれにでも」+1つのじまん(本気の話し合いの授業)進んでみんなのためになる行動をした子にブレン賞で賞揚(小学校 **203**)**自尊・規範**
- 思いやり、あったか言葉、班毎の話し合い、ふり返し、掲示、放送委員会による呼び掛け(小学校 **164**)

数字は全校児童数、**自尊**は自尊感情を、**規範**は規範意識を育むと推定される取組を示す

このようなまとめに加え、各学校の実態を多面的に捉える視点として学校のグランドデザインや、小中学校では「児童生徒の問題行動等生徒指導の諸問題に関する調査」、高等学校では「生徒指導に係る調査」のデータ等を総合して以下の小学校2校、中学校2校、高等学校2校、計6校を研究取材協力校として依頼することとした。

＜小学校＞

・伊東市立南小学校 ・菊川市立堀之内小学校

＜中学校＞

・長泉町立北中学校 ・御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校

＜高等学校＞

・静岡県立掛川東高等学校 ・静岡県立磐田西高等学校

4 取材協力校への訪問、聞き取り調査及び情報の整理、分析（平成25年度）

訪問は1校につき前期（6～7月）と後期（10～11月）の2回とし、それぞれの学校に指導主事2人以上の複数で訪問した。1回目の前期訪問では管理職や生徒指導主事・主任等から、学校の特色や特に力を入れている取組を聞き取ることに加え、実際の児童生徒や教職員の様子も参観し、学校の良さがどのような取組や教職員と児童生徒の関わりによって生まれているのかを探った。また、訪問後には学校ごとに報告書にまとめ、情報を班内で共有した。

全ての学校の前期訪問が終了した後、訪問で感じた学校の良さや各学校の特色ある取組を構成する要素がどこにあるかを分析し、キーワードとして表にまとめた。（表7）

表7 各校の特色ある取組の構成要素 キーワードによる分類

	小	小	中	中	高	高
1 挨拶		○	○		○	○
2 笑顔・活力（エネルギー）	○	○	○		○	○
3 清掃・整頓		○			○	○
4 授業		○				
5 道徳	○					
6 良いことを見つけ	○	○			○	○
7 目あての明確化（分かりやすさ・自尊感情）		○				
8 安心感（背景・思いを大切に）	○		○		○	○
9 振り返り（評価）・見届け（丁寧）	○	○	○	○		
10 浸透（校風）・徹底	○	○	○		○	○
11 良い環境（当たり前）	○	○	○			○
12 誇りを持たせる			○		○	○
13 自治性（児童会・生徒会）・主体性		○			○	○
14 斬新なアイデア（リーダーシップ）・遊び心		○				○
15 教師集団一体感（チームワーク）	○	○			○	
16 異学年のつながり（敬う・交流）		○	○	○		
17 異種校連携	○		○（特と）	○	○	○
18 地域とのつながり（OB）			○	○	○	○
19 県版プログラム活用		○				

後期の2回目の訪問にあたり、表7にある分類表をもとに、各校で具体的にどのような内容を聞き取ってくるか、児童生徒のどのような活動場면을参観してくるかについて話し合い、プログラム作成に生きる、より具体的な視点を持って訪問できるようにした。2回の訪問から感じ取ることができた人間関係づくりを基盤とした、児童生徒の自尊感情、規範意識を育む各校の取組について以下に示す。

(1) 伊東市立南小学校

- ・「道徳教育」を柱とした自尊感情を育む取組
- ・「心ほかほか委員会」による、「よいところ見つけ」で自尊感情を高める取組
- ・傾聴がもたらす、聞いてもらえるという安心感にあふれる居場所づくり

(2) 菊川市立堀之内小学校

- ・「かがやき見つけ」を中心とした自尊感情を高める取組
- ・上級生と下級生のペア活動（給食・読書・清掃）等自己有用感を高める取組
- ・学級力を評価するアンケートや学級力を高める話合い活動による、規範意識を高めるための取組



写真1 堀之内小学校
かがやきづくりコーナー

(3) 長泉町立北中学校

- ・「北中生らしさ」という目に見えない校風や伝統が生徒の判断基準として定着しており、それを誇る雰囲気での定着
- ・「関わり合いを通して意見をさらに練り合う話合い活動の充実」に基づいた、意図的なグループ分け
- ・一人一人の発言やつぶやきを大切にしている教師の姿勢と、教師と生徒の良好な人間関係づくりによってもたらされる安心感

(4) 御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校

- ・ステージ制を生かした、ステージ目標に沿った活力ある人間関係づくりの実践
- ・生徒会や委員会を中心としたステージ集会の運営による、自治力向上の取組
- ・地域と連携した行事への参加による、自己有用感を育む取組

(5) 静岡県立掛川東高等学校

- ・挨拶を東校生の誇りとしている。誰にでも笑顔で心のこもった主体的な挨拶ができる自尊感情の育成
- ・部活動単位でボランティア活動を行うなど、所属感や、自己有用感を育む取組
- ・「学校文化報告会」の実施により、運動部だけでなく文化部の生徒にも光を当てる。頑張っている生徒を認め、多くの生徒に知ってもらうことで自信を持たせる場面作り



写真2 御前崎中学校
ステージ集会の様子

(6) 静岡県立磐田西高等学校

- ・あせふこプロジェクトによる規範意識を高め、学ぶ姿勢を作る意図的な活動
- あ：挨拶 元気な声と美しい起立と礼
せ：清掃 ごみ、ほこりがない校舎・校庭
ふ：服装 制服のきちんとした着こなし
こ：校歌 誇りを持って大きな声で歌う



写真3 磐田西高等学校
あせふこスローガン掲示

5 仮プログラムの作成

取材協力校から得た成果をもとに、センターとしてプログラムに盛り込みたい内容を加え仮プログラムを作成した。作成にあたりプログラムそのものの在り方及び内容については時間をかけて検討した。

(1) プログラムの基本的な押さえ

ア プログラムとしての特性を押さえる

プログラムとして提案するという考えに基づき、目指す姿に向かうための手順を示すものとする。

イ 全てのプログラムに人間関係づくりが息づき、児童生徒の内面にある自尊感情や規範意識を育むものとする

未然防止プログラムという性格上、問題行動として表出した表れに対する対処法や手立てではなく、教師と児童生徒が、そして児童生徒同士が良好な人間関係づくりをしていくことで、児童生徒の「内面」にまで働きかけ、そのことで児童生徒の「表れ」まで変えていくような内容とする。したがって、即効性を求めるというよりも、時間をかけて土台作りをしていくという視点に立つ。

ウ 汎用性を高める

小中高等学校全ての校種の先生方に使ってもらうことができるプログラムを作成する。ホップ、ステップ、ジャンプという三つの段階に分けて目指す児童生徒の姿を設定し、学校や児童生徒の実態に応じて選択し使えるものとする。

エ 教師に「より高みを目指そう」と思ってもらえる提案の仕方を工夫する

現状を何とかしたいという考え方に加え、安定している今だからこそ、さらに良くしていきたいと考えてもらえるような内容及び手順を示す。

(2) プログラムの内容

ア 内容は、「笑顔・活力・けじめ・思いやり・清潔・整然」の六つの項目で構成する

当初思い描いた「人」（笑顔・活力）、「心」（けじめ・思いやり）、「場」（清潔・整然）という要素が、十分に機能している学校が理想的であり、こうした理想の状態にある学校は問題行動も未然に防止できている、という考え方に基づき、プログラムはこれらの六つの項目で構成することとした。

イ それぞれのプログラムは、ホップ、ステップ、ジャンプの3段階で構成する

前述の通り、汎用性を高める理由から、プログラムは3段階で構成した。ジャンプがそれぞれのプログラムで求める理想の状態、ホップとステップはそこへ向かう道筋を示した。使用の際は、学校や学級の児童生徒の実態に応じ、どの段階から使っても良いこととした。また、途中で一つ前の段階へ戻って行うことも可能である。

ウ それぞれの段階に見出しと説明文をつける

教師がどの段階から使えば良いかを判断するために、全てのプログラムの全ての段階に見出しと説明文をつけることとした。

エ それぞれの段階は「教師の働きかけ」「指導のポイント」「期待できる効果（児童生徒の変容）」で内容を具体的に示す

「教師の働きかけ」では取り組んでほしい内容を、「指導のポイント」では働きかけを行う際に大切にしてほしいことや留意点を、「期待される効果」では、プログラムを

実施することで期待できる児童生徒の変容を具体的に示した。「思いやり」のプログラムを以下に示す（図1）。

「周りへの思いやり」

「思いやり」は、相手に対する温かな思いを抱けにとどまらず、行動に移せるようになることまで高めたいものです。そのための、「自他の良さに気づく」「思いを伝え動き出す」「働きかけ支え合う」という、三つのステップを紹介します。

Hop 【自他の良さに気づく】

ご自分の学級を見回したとき、「思いやりがない」と感じることはありませんか。そんなときは、児童生徒が自分の良さと友達の良さに「気づく」場をつくることに力を入れてみましょう。互いの良さを見つけ合い、認め合おうとする児童生徒のまなざしは、思いやりの基盤となるものです。

良いところ発見

◎ 教師の働きかけ

- ①見つけた友達の良いところをカードに書かせるなど、良さを記録させる。
- ②記録した内容をホームルーム等で発表させたり、掲示させたりする。
- ③学年や学校全体で「良いところみつけ」の報告会を開く。

☆ 指導のポイント

- ①見つけようとした児童生徒の温かさや、視点の素晴らしさ、積極性を大いにほめ、周りに広める。教師も、率先して児童生徒の良さを見つけ伝える。
- ②掲示するとき、学級の児童生徒に知らせたい場合は教室に、学年全体に広げたい場合は廊下や学年掲示板に、全校に伝えたい場合は玄関や昇降口にと、目的によって掲示場所を変える。
- ③良さの質の向上を感じさせるため、報告会は定期的に開催すると効果的。

◇ 期待できる効果（児童生徒の変容）

- 最初のうちは目立つこと、自分が嬉しかったことに対する発見が多いが、回数を重ねるうちに、目立たない友達の良さ、集団を向上させるための努力に対する発見が見られるようになる。見方次第で、友達のいろいろな良さが見えてくることに気づく。
- 自分の良さが書かれたカードに触れることで、自己有用感が高まる。友達の良いところに気づいた「自分の優しさや温かさ」も実感できる。
- カードを見合ったり報告し合ったりすることにより、良さに対する互いの価値観を交流することができ、自分のできそうな良い行いが見えてくる。

Step 【思いを伝え動き出す】

次に、「気づく」から「伝え動き出す」へのステップアップです。「良いところみつけ」によって、優しさの目、温かさの目で見ようとする心が育っていますから、友達の困り感にも気づく下地ができています。困っている友達に声をかけて思いを伝え、具体的に行動に表す自信と勇気を育みましょう。

居場所づくり

◎ 教師の働きかけ

- ①温かく肯定的なメッセージを送る機会を増やし、児童生徒が「自分は大切にされている」と思える集団をつくる。
- ②児童生徒相互に「聴く」活動を重視し、温かな聴き方づくりに取り組む。
- ③静岡県版「人間関係づくりプログラム」等をタイムリーに活用する。

☆ 指導のポイント

- ①児童生徒の「弱みより強み」を、「能力より努力」を、「表出された声よりも心の声」を見取ったり聞き取ったりするよう心がける。ほめるときは、主語を「私」や「私たち」にしてほめるなど、児童生徒の自己存在感を高める。
- ②「良い聴き方」についてみんなで考え、集団の目標を作る。決まった聴き方を掲示し常に意識づける。いろいろな教室に掲示すると、さらに効果的。
- ③静岡県版「人間関係づくりプログラム」は、小中学校版では「自己表現」のエクササイズを、高校版では「いじめ・自殺防止対策としての人間関係づくり」を中心に行う。エクササイズ後の、感想を分かち合う時間を大切に。

◇ 期待できる効果（児童生徒の変容）

- 個人の困り感を一人だけのものにせず、誰かのために動き出そうとした一人の勇気を支える集団ができる。
- 聴き上手な児童生徒を育てていくことで、発信しようとする児童生徒の思いが伝わりやすくなり、「自分を表現しよう」「進んで動き出そう」とする自信が湧く。
- プログラムの実施により、思いはあってもその伝え方がわからない児童生徒に、具体的な言葉がけのスキルと一歩踏み出す勇気生まれる。

Jump 【働きかけ支え合う】

いよいよ、「伝え動き出す」から「働きかけ支え合う」です。友達のために動き出す自信と勇気を持った児童生徒には、一人ひとりの困り感に合った、より適切な働きかけの方法が学べる場で、実践力を磨きましょう。

異集団との交流

◎ 教師の働きかけ

- ①学級が支え合う集団に高まっていることを意識づけ、共有させる。
- ②ペア清掃などの異学年交流、小学校・中学校間などの異種校間交流を行う。
- ③地域の人たちと触れ合う機会を増やす。

☆ 指導のポイント

- ①Stepまでの取組によって高まったところを確認し合ったり、発表し合ったりする。集団の高まりを、児童生徒個々の高まりとしてフィードバックする。
- ②異学年交流や異種校間交流をすでに行っている場合は、活動そのものが目的になってしまっていないかを見直す。例えば、下級生の困り感に上級生が接するとき、その児童生徒の主体的な判断があるか、周りの児童生徒はその価値ある一歩にどんな支えができていくかという視点で。
- ③地域の人たちとの触れ合いを、学校で培った「思いやり」を広げる場、実践力を磨く積極的な場と位置づけ、その児童生徒ならではの働きかけをほめる。

◇ 期待できる効果（児童生徒の変容）

- あらゆる年齢の人のあらゆる困り感に、自分ならどんなことができるのかを考え、判断し、働きかけていく力が育つ。
- 困っている人に手を貸して受け入れられたときや、「ありがとう」の一言ももらったときに、人とつながる喜びと、さらなる自信が芽生える。
- 学校の外であっても、誰かが見ていなくても、自分の信念を支えられた良い行いが自然にできるようになる。

一人の発言や行動に、自然と拍手が起る学級があります。その学級はきっと、一人ひとりの温かさや優しさが共鳴する、良さがつながり合う支え合う集団なのでしょう。「思いやり」を、学級・学校の文化にしてみませんか。

図1 「思いやり」のプログラム

6 実践協力校の選定

次年度にプログラムを実践し効果の検証に協力してもらおう学校について、様々な角度から検討した結果、研究の趣旨をよく理解してくれている取材協力校6校を実践協力校として、引き続き協力をお願いすることとした。

7 実践協力校への訪問、協力依頼（平成26年度）

実践協力校を訪問し、依頼内容について、以下の点を説明した。

(1) プログラムの使用について

プログラムの使用に当たり、どのプログラムをどの時期に実践するか、使う対象をどうするか等は、学校の規模や現状に応じて、学校裁量で自由に選定する。同様にホップ、ステップ、ジャンプの各段階についても、使用する対象児童生徒の実態に応じてどこから始めてもよい。使用しながらステップアップしていくのが理想であるが、時には一つ前の段階に戻って使用することも可能である。

(2) 児童生徒用アンケートの実施について

プログラム使用対象児童生徒にアンケートを実施する。実施時期は、プログラム使用前と使用後とし、同一のアンケートを実施することにより、児童生徒の意識の変容をプログラムの有効性の検証材料として用いる。

(3) 教師用アンケートの実施について

プログラムを使う側の教師に対してもアンケートを実施する。時期はプログラム使用後とする。プログラム使用前と使用後で、児童生徒の意識や行動に変容が感じられたと思われることについての記述とともに、実際にプログラムを使った立場から、プログラムに対する率直な感想や意見も募り、プログラムの成果の検証と改善に役立てる。

8 実践協力校による実践及び成果の検証

(1) 各校の実践と児童生徒用アンケートの分析

ア 伊東市立南小学校

全学級で、各学級の実態や目的に応じてプログラムを選択し実施した。プログラムを意識した働きかけを行った場面は、教科授業、学級活動や道徳の時間、朝・帰りの会、給食の時間、行事など様々であった。各学級で行ったプログラムを以下に示す（表8）。

表8 伊東市立南小学校 使用プログラム一覧

クラス	笑顔			活力			（けじめ			思いやり			清潔			整然		
	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP
11	○																	
12							○	○	○									
13							○	○										
14							○	○										
21		○																
22		○																
23										○				○				
24										○								
31									○									
32									○									
33									○									
34									○									
41											○	○						
42						○	○											
43	○										○							○
51	○								○		○							
52		○																
53																		
54								○	○								○	○
61								○	○									
62	○					○		○										
63	○	○																
64								○	○									

実施した学級が5学級以上であった「笑顔」、「けじめ」、「思いやり」の各プログラムについて、プログラム実施前と実施後の児童用アンケートの結果を比較した。それぞれのプログラムに対応する二つのアンケート項目に対し、肯定的な捉えであるA「そう思う」から否定的な捉えであるD「そう思わない」までの数の増減を比較した。（表9から11）

表9 「笑顔」に係るアンケート事前事後の評価増減（4段階児童評価 対象8学級）

私は、笑顔で自分らしく生活している					私は、誰に対しても爽やかな挨拶をしている				
	A	B	C	D		A	B	C	D
事前	55.1%	37.9%	5.9%	1.1%	事前	30.5%	52.9%	14.0%	2.6%
事後	57.1%	38.2%	3.6%	1.1%	事後	26.4%	52.9%	19.0%	1.7%
増減	2	0.3	-2.3	0	増減	-4.1	0	5	-0.9

表10 「けじめ」に係るアンケート事前事後の評価増減（4段階児童評価 対象12学級）

私は、授業と休み時間をきちんと区別している					私は進んでルールを守っている				
	A	B	C	D		A	B	C	D
事前	55.3%	37.8%	4.9%	2.0%	事前	51.3%	41.2%	5.5%	2.0%
事後	55.5%	36.4%	7.3%	0.8%	事後	47.7%	44.0%	7.5%	0.8%
増減	0.2	-1.4	2.4	-1.2	増減	-3.6	2.8	2	-1.2

表11 「思いやり」に係るアンケート事前事後の評価増減（4段階児童評価 対象5学級）

私は友達とお互いを認め合い、安心して学んでいる					私は周りの人に対して思いやりのある行動をとっている				
	A	B	C	D		A	B	C	D
事前	72.8%	23.1%	2.7%	1.4%	事前	51.7%	41.5%	5.4%	1.4%
事後	74.2%	20.6%	2.6%	2.6%	事後	41.3%	45.2%	11.0%	2.5%
増減	1.4	-2.5	-0.1	1.2	増減	-10.4	3.7	5.6	1.1

結果を見ても分かるように、アンケートからは顕著な変化を見出すことはできなかった。これは、事前の段階からA、Bと答えている児童が多く、上位項目への変化の割合が少なかったと考えられる。しかし、「笑顔で自分らしく生活している」や、「友達とお互いを認め合い、安心して学んでいる」など、A評価が伸びている項目も見られた。

イ 菊川市立堀之内小学校

3、4年生各2学級で各学級の実態や目的に応じてプログラムを複数選択し実施した。教科授業や道徳の時間、朝・帰りの会や行事を中心にプログラムを使用した。元々取り組んでいる「かがやきカード」を用いた取組や、「静岡県版人間関係づくりプログラム」を活用した取組が見られた。各学級で行ったプログラムを以下に示す（表12）。

表12 菊川市立堀之内小学校 使用プログラム一覧

学級	笑顔			活力			けじめ			思いやり			清潔			整然		
	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP
3月		○					○				○							
3雪	○										○							
4月				○	○		○			○								
4雪						○	○			○		○						

堀之内小学校で使用した「笑顔」、「活力」、「けじめ」、「思いやり」の四つのプログラムについて、プログラム実施前と実施後の児童用アンケートの結果を、実施した学級ごとに比較した。（表13から16）

「笑顔」のプログラムを使用した学級のアンケート結果（表13）を見ると、項目によって差はあるが、「あ」学級の「誰に対しても爽やかな挨拶をしている」や、「い」学級の「笑顔で自分らしく生活している」はAの割合が増加している。「活力」の結果（表14）では、2学級4項目中3項目でAの割合が増加した。「けじめ」の結果（表15）では、使用した3学級のうち、2クラスで2項目のどちらかが、残りの1クラスでは両方の項目でAの割合が増加した。「思いやり」の結果（表16）については、全てのクラスで実施したが、効果が見られたクラスとそうではないクラスとに分かれた。

表 13 笑顔に係るアンケート事前事後の評価増減（４段階児童評価 対象２学級）

私は笑顔で自分らしく生活している				
あ	A	B	C	D
事前	57%	31%	0%	12%
事後	38%	38%	12%	12%
増減	-19	7	12	0

私は笑顔で自分らしく生活している				
い	A	B	C	D
事前	7%	79%	14%	0%
事後	44%	52%	4%	0%
増減	37	-27	-10	0

私は誰に対しても爽やかな挨拶をしている				
あ	A	B	C	D
事前	19%	46%	31%	4%
事後	32%	44%	8%	16%
増減	13	-2	-23	12

私は誰に対しても爽やかな挨拶をしている				
い	A	B	C	D
事前	57%	36%	7%	0%
事後	45%	48%	7%	0%
増減	-12	12	0	0

表 14 活力に係るアンケート事前事後の評価増減（４段階児童評価 対象２学級）

私は授業に集中し主体的に取り組んでいる				
う	A	B	C	D
事前	7%	60%	30%	3%
事後	35%	52%	13%	0%
増減	28	-8	-17	-3

私は授業に集中し主体的に取り組んでいる				
え	A	B	C	D
事前	16%	29%	48%	6%
事後	20%	52%	24%	3%
増減	4	23	-23	-3

私は学校生活の様々な活動に進んで取り組んでいる				
う	A	B	C	D
事前	38%	38%	14%	10%
事後	41%	56%	3%	0%
増減	3	18	-11	-10

私は学校生活の様々な活動に進んで取り組んでいる				
え	A	B	C	D
事前	52%	29%	16%	3%
事後	28%	66%	3%	3%
増減	-24	37	-13	0

表 15 けじめに係るアンケート事前事後の評価増減（４段階児童評価 対象３学級）

私は、授業と休み時間をきちんと区別している				
お	A	B	C	D
事前	46%	34%	8%	12%
事後	61%	27%	0%	12%
増減	15	-7	-8	0

私は、授業と休み時間をきちんと区別している				
か	A	B	C	D
事前	67%	30%	3%	0%
事後	46%	48%	6%	0%
増減	-21	18	3	0

私は、授業と休み時間をきちんと区別している				
き	A	B	C	D
事前	23%	26%	32%	19%
事後	28%	52%	17%	3%
増減	5	26	-15	-16

私は進んでルールを守っている				
お	A	B	C	D
事前	58%	38%	4%	0%
事後	56%	32%	0%	12%
増減	-2	-6	-4	12

私は進んでルールを守っている				
か	A	B	C	D
事前	23%	60%	17%	0%
事後	38%	56%	6%	0%
増減	15	-4	-11	0

私は進んでルールを守っている				
き	A	B	C	D
事前	23%	58%	19%	0%
事後	41%	38%	21%	0%
増減	18	-20	2	0

表 16 思いやりに係るアンケート事前事後の評価増減（４段階児童評価 対象４学級）

私は友達とお互いを認め合い、安心して学んでいる				
く	A	B	C	D
事前	58%	34%	8%	0%
事後	13%	61%	13%	13%
増減	-45	27	5	13

私は友達とお互いを認め合い、安心して学んでいる				
け	A	B	C	D
事前	54%	46%	0%	0%
事後	56%	44%	0%	0%
増減	2	-2	0	0

私は友達とお互いを認め合い、安心して学んでいる				
こ	A	B	C	D
事前	17%	53%	30%	0%
事後	54%	40%	3%	3%
増減	37	-13	-27	3

私は友達とお互いを認め合い、安心して学んでいる				
さ	A	B	C	D
事前	45%	35%	13%	6%
事後	56%	34%	3%	7%
増減	11	-1	-10	1

私は周りの人に対して思いやりのある行動をとっている				
く	A	B	C	D
事前	38%	48%	14%	0%
事後	15%	73%	12%	0%
増減	-23	25	-2	0

私は周りの人に対して思いやりのある行動をとっている				
け	A	B	C	D
事前	0%	93%	7%	0%
事後	33%	67%	0%	0%
増減	33	-26	-7	0

私は周りの人に対して思いやりのある行動をとっている				
こ	A	B	C	D
事前	31%	59%	10%	0%
事後	32%	68%	0%	0%
増減	1	9	-10	0

私は周りの人に対して思いやりのある行動をとっている				
さ	A	B	C	D
事前	26%	45%	26%	3%
事後	18%	69%	10%	3%
増減	-8	24	-16	0

ウ 長泉町立北中学校

1年生2クラス、2年生3クラス、3年生2クラスで各学級の実態や目的に応じてプログラムを選択し実施した。プログラムを意識した働きかけを行った場面は、教科授業、学級活動や道徳の時間、朝・帰りの会など様々であった。クラスや学年の問題点を全員で共有して話し合う活動や、日記を利用した日常的な関わりを大切にする取組などが見られた。各学級で行ったプログラムを以下に示す（表17）。

表17 長泉町立北中学校 使用プログラム一覧

クラス	笑顔			活力			けじめ			思いやり			清潔			整然		
	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP
11										○	○							
12											○							
21	○																○	
22	○							○									○	
23										○								
31				○														
32						○												

生徒用アンケートについては、使用したプログラムや具体的な実践内容に応じた学級担任の視点に基づき、独自に作成したもので行った。アンケート結果から実際に生徒の変容が見られた例としては、「思いやり」のプログラム使用后、「友達の良さに気づくことがある」、「周囲の人に対して思いやりのある行動をとっている」の評価が向上した。「思いやり」のプログラムにある聴き合う活動を意図的に仕組んでいったことで、「進んで意見を言う・聞く」、「他者の価値観を認めることができる」生徒が増えた。「活力」のプログラム使用后、「クラスが仲良くなった」、「クラスがよい雰囲気変わった」と捉える生徒の割合が向上したなどが挙げられた。

エ 御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校

学年ごとにプログラムを選択し、全学級で実施した。1、2年生は「けじめ」、3年生は「笑顔」、また、特別支援学級でも「活力」のプログラムを行った。それ以外にも独自にプログラムを実施した学級もあった。プログラムを意識した働きかけを行った場面は、教科授業、行事においてが中心だったが、保健室登校の生徒に対して実施した学級もあった。各学級で行ったプログラムを以下に示す（表18）。

表18 御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校 使用プログラム一覧

学年	笑顔			活力			けじめ			思いやり			清潔			整然		
	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP	HOP	STEP	JUMP
1年							○	○	○									
2年	△						○	○		△								
3年		○	△		△	△	△				△							

(△は学級独自に行ったプログラム)

御前崎中学校が取り組んだ「笑顔」と「けじめ」のプログラムについて、プログラム実施前と実施後の生徒用アンケートの結果を、実施した学年ごとに比較した。(表19から21)。「笑顔」のプログラムについては3年生5クラスで使用した。アンケート結果を(表19)見ると、「笑顔で自分らしく生活している」、「誰に対しても爽やかな挨拶をしている」の両項目ともAの割合が増加した。1、2年生(各5クラスずつ)が実施した「けじめ」のプログラムは1年生(表20)では顕著な成果を認めることはできなかったが、2年生(表21)ではどちらの項目もAの割合が増加し成果が認められた。

表 19 「笑顔」に係るアンケート事前事後の評価増減（4段階児童評価 対象3年生）

私は、笑顔で自分らしく生活している					私は、誰に対しても爽やかな挨拶をしている				
	A	B	C	D		A	B	C	D
事前	54.0%	40.0%	5%	1%	事前	37.0%	56.0%	7.0%	0.0%
事後	63.0%	30.0%	5%	2%	事後	47.0%	45.0%	8.0%	0.0%
増減	9	-10	0	1	増減	10	-11	1	0

表 20 「けじめ」に係るアンケート事前事後の評価増減（4段階児童評価 対象1年生）

私は、授業と休み時間をきちんと区別している					私は進んでルールを守っている				
	A	B	C	D		A	B	C	D
事前	57.0%	40.0%	3.0%	0.0%	事前	55.0%	36.0%	9.0%	0.0%
事後	49.0%	43.0%	7.0%	1.0%	事後	48.0%	46.0%	6.0%	0.0%
増減	-8	3	4	1	増減	-7	10	-3	0

表 21 「けじめ」に係るアンケート事前事後の評価増減（4段階児童評価 対象2年生）

私は、授業と休み時間をきちんと区別している					私は進んでルールを守っている				
	A	B	C	D		A	B	C	D
事前	58.0%	34.0%	6.0%	2.0%	事前	53.0%	39.0%	6.0%	2.0%
事後	66.0%	29.0%	4.0%	1.0%	事後	65.0%	29.0%	5.0%	1.0%
増減	8	-5	-2	-1	増減	12	-10	-1	-1

オ 県立掛川東高等学校

掛川東高等学校では、学校経営計画の取組の一つとして、日常生活の中での道徳教育「時を守り、場を清め、礼を正す」を挙げている。このような学校の取組に、本プログラムの理念を取り入れ、各教員がクラスの枠にとらわれず、授業、清掃、部活動等の様々な場面で生徒と関わることにした。また、本プログラムで求める生徒の姿を、以下の学校独自の具体的な場面での行動に落とし込み、毎月達成できた生徒の数を調査し、生徒の変容を追うとともに（表 22）、教職員にもそれぞれの場面で求める行動を示し、同様に達成できた人数の調査を行った。

(ア) 笑顔

具体的な取組を「挨拶」に特化して、安心感や共感の変容を把握する。

(イ) 活力

具体的な取組を「学習」に特化して、主体性の変容を把握する。

(ウ) けじめ

具体的な取組を「ルール」に焦点化して、ルールに対する納得の度合いの変容を把握する。

(エ) 思いやり

具体的な取組を「人間関係づくり」に焦点化して、他者理解に対する心の変容を把握する。

(オ) 清潔

具体的な取組を「気づき」に特化して、個人の場合から共同の場合への整理整頓の意識状態変化を把握する。

(カ) 整然

具体的な取組を「集団との調和」に焦点化し、傾聴から受容への行動の変化を把握する。

表 22 学年別各項目の達成人数の割合（各項目ホップ、ステップ、ジャンプの3段階）

		1年	2年	3年
笑顔	(Hop)1着1で挨拶ができています。(友人同士、先生と生徒)			
	事前	97.3%	72.4%	97.3%
	事後	98.2%	74.4%	98.2%
	増減	09	20	09
	(Step)校内で教師やお客様に自分から挨拶ができています。			
	事前	90.1%	69.1%	93.2%
	事後	96.9%	76.8%	94.5%
	増減	6.7	7.7	1.4
	(Jump)登下校時、近所の人にも挨拶をする。			
	事前	71.3%	64.6%	71.2%
	事後	83.4%	74.4%	79.0%
	増減	12.1	9.8	7.8

		1年	2年	3年
活力	(Hop)授業ベルで場所がで、授業に前向きに取り組む姿勢ができています。			
	事前	90.1%	65.4%	88.1%
	事後	94.2%	72.8%	94.5%
	増減	4.0	7.3	6.4
	(Step)授業の予習復習や課題提出など決められたことはしっかりできています。			
	事前	53.8%	59.3%	67.1%
	事後	68.6%	65.9%	83.1%
	増減	14.8	6.5	16.0
	(Jump)目標に向かって課題以外にも自主的に学習に取り組んでいる。			
	事前	25.1%	11.0%	34.7%
	事後	33.6%	31.7%	74.4%
	増減	8.5	20.7	39.7

		1年	2年	3年
けじめ	(Hop)制服や冠帯等校則をしっかりと守っている。			
	事前	94.6%	75.2%	93.2%
	事後	96.9%	82.5%	95.4%
	増減	2.2	7.3	2.2
	(Step)自ら校則を守る姿勢が定着しており、周囲に良い影響を与えている。			
	事前	53.4%	52.8%	64.8%
	事後	62.8%	58.5%	73.1%
	増減	9.4	5.7	8.2
	(Jump)自転車マナーをはじめ、人が見ていないところでもルールを守ることができ、規範意識ナンバー1を目指している。			
	事前	43.9%	33.3%	45.7%
	事後	59.6%	42.7%	63.9%
	増減	15.7	9.3	18.3

		1年	2年	3年
思いやり	(Hop)してもらったこと、言われたことに対して「ありがとう」がきちんと出る。			
	事前	98.2%	76.0%	97.7%
	事後	98.2%	76.4%	97.3%
	増減	0.0	0.4	-0.5
	(Step)自分がされて嫌なことは人にせず、されてうれしいことをする。			
	事前	74.4%	60.6%	75.3%
	事後	85.7%	74.0%	83.1%
	増減	11.2	13.4	7.8
	(Jump)1日1つは人のために行動している。			
	事前	47.5%	35.8%	43.4%
	事後	53.4%	48.0%	51.6%
	増減	5.8	12.2	8.2

		1年	2年	3年
清潔	(Hop)机の中やロッカーは常にきれいに保たれている。(自分の身の周り)			
	事前	65.0%	53.7%	77.6%
	事後	73.5%	56.5%	82.2%
	増減	8.5	2.8	4.6
	(Step)黒板、教室、トイレ、水道場はいつもきれいに使っている。(共同の場)			
	事前	92.4%	82.9%	90.4%
	事後	97.8%	87.4%	95.4%
	増減	5.4	4.5	5.0
	(Jump)学校周辺のゴミ拾いや美化ボランティア活動を積極的にやっている。			
	事前	15.2%	13.8%	21.9%
	事後	18.8%	19.1%	22.4%
	増減	3.6	5.3	0.5

		1年	2年	3年
整然	(Hop)授業や部活動で、関心をしっかりと耳を傾け、話すときは相手に合わせるように話している。			
	事前	78.5%	63.0%	81.7%
	事後	84.3%	66.3%	90.0%
	増減	5.8	3.3	8.2
	(Step)式典、集会など見通しを持って時間前に集合し盛装と揃っている。			
	事前	76.2%	64.6%	79.9%
	事後	86.1%	75.6%	89.5%
	増減	9.9	11.0	9.6
	(Jump)決められる姿を自己の物として受け入れ行動する。校歌を大々か歌って、授業生であることに誇りをもって行動している。			
	事前	39.5%	32.5%	39.7%
	事後	50.2%	39.0%	51.6%
	増減	10.8	6.5	11.9

アンケート結果を見ると、ほぼ全ての学年、項目で「できている」と答えた生徒の割合が増加している。特に、活力の「学習に対する主体性の度合い」、けじめの「ルールに対する納得の度合い」、思いやりの「人間関係づくりにおける、他者理解に対する心の変容の度合い」、整然の「集団との調和における、傾聴から受容への行動の変化の度合い」の4項目については顕著な変化が表れている。

カ 県立磐田西高等学校

磐田西高等学校の特色ある取組である、「あせふこ」活動に本プログラムをリンクさせ、掛川東高等学校同様、それぞれのプログラムに対する具体的な求める姿を設定し、各教員が、授業、清掃、部活動等の場面で必要に応じて実施した。プログラムに対応する求める姿は以下の通りである。

(ア) 笑顔

- ・周りから認められ自分らしく笑顔で生活できている。
- ・友達の個性を認め共によりよく生活しようとしている。

(イ) 活力

- ・自分の思ったことや、感じたことを進んで表現しようとしている。
- ・自分がこうしたい、こうなりたいという目標意識を持って学校生活を送る。

(ウ) けじめ

- ・自ら進んで学校のルールを守っている。
- ・仲間や学校のためになる行動を進んで行おうとしている。

(エ) 思いやり

- ・クラスの中に自分の居場所がある。
- ・困っている人に対し何が出来るか、自ら考えて行動しようとする。

(オ) 清潔

- ・季節や場に合った整った身なりで生活しようとして心がけている。
- ・公共の場が清潔に保たれていることを気持ちが良いとすることができる。

(カ) 整然

- ・人の意見や発言を最後までしっかり聞こうと心がけている。
- ・集会や式典は落ち着いた雰囲気の中で行われるものだと思う。

事前事後のアンケートは、それぞれの項目に対し二つの設問で行った。アンケートの結果（表 23）を見ると、各学年ほぼ全ての項目で上位評価への変容が認められた。その中でも特に「笑顔」の項目である「友達の個性を認め、共によりよく生活しようとしている」と、「活力」の項目である「自分がこうしたい、こうなりたいという目標意識を持って学校生活を送っている」については顕著な変容が見られた。

キ 児童生徒用アンケートの分析

実践協力校6校の児童生徒を対象としたアンケートの数値からは、向上が見られたものもあれば、顕著な成果が得られなかったものもあった。この点については、プログラム自体が特別な機会を捉えて、短期間で行うものではなく、日常的に意図的に働きかけを行うものがほとんどであるため、すぐに児童生徒の意識や行動の変容といった結果に表れにくいという側面があったと考えられる。

また、学校ごとの取り組み方を比較すると、学級ごと担任の裁量でプログラムを選

択して実施するよりも、学校や学年全体でプログラムを決めて使用したり、プログラムから目指す姿の具体を設定して意図的、計画的に働き掛けを行ったりした方が児童生徒の上位評価への変容が大きくなっている。教師の共通理解の下、足並みを揃えて使っていくことで、プログラムの効果が高まると考えられる。

表 23 磐田西高等学校 アンケート事前事後の評価増減（4段階生徒評価 対象全学年）

		1年				2年				3年				
笑顔	周りから認められ、自分らしく笑顔で生活出来ている													
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
	事前	22.5(%)	53.1(%)	20.2(%)	4.2(%)	25.5(%)	51.8(%)	19.8(%)	2.9(%)	19.3(%)	63.1(%)	16.7(%)	0.9(%)	
	事後	28.2(%)	60.7(%)	8.3(%)	2.8(%)	30(%)	60.7(%)	8.5(%)	0.8(%)	25.4(%)	62.1(%)	11.6(%)	0.9(%)	
	増減	5.7	7.6	-11.9	-1.4	4.5	8.9	-11.3	-2.1	6.1	-1.0	-5.1	0.0	
	友達の個性を認め、共にによりよく生活しようとしている													
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		
事前	35.6(%)	57.9(%)	6(%)	0.5(%)	41.8(%)	51.4(%)	6.8(%)	0(%)	28.5(%)	65.4(%)	6.1(%)	0(%)		
事後	49.1(%)	48.1(%)	1.9(%)	0.9(%)	49.4(%)	44.6(%)	5.6(%)	0.4(%)	37(%)	59(%)	4(%)	0(%)		
増減	13.5	-9.8	-4.1	0.4	7.6	-6.8	-1.2	0.4	8.5	-6.4	-2.1	0.0		
活力	自分が思ったことや感じたことを進んで表現しようとしている													
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
	事前	21.5(%)	51(%)	25(%)	2.5(%)	17.9(%)	50.2(%)	29.1(%)	2.8(%)	22.8(%)	52.7(%)	23.2(%)	1.3(%)	
	事後	21.1(%)	63.4(%)	13.6(%)	1.9(%)	23.1(%)	57.4(%)	17.9(%)	1.6(%)	25.2(%)	55.9(%)	17.6(%)	1.3(%)	
	増減	-0.4	12.4	-11.4	-0.6	5.2	7.2	-11.2	-1.2	2.4	3.2	-5.6	0.0	
	自分がこうしたい、こうなりたいという目標意識を持って学校生活を送っている													
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		
事前	24.6(%)	53(%)	19.1(%)	3.3(%)	16.6(%)	57.3(%)	24.9(%)	1.2(%)	15.9(%)	54.4(%)	27.9(%)	1.8(%)		
事後	30.7(%)	57.6(%)	8.8(%)	2.9(%)	30.4(%)	53(%)	13.8(%)	2.8(%)	27.2(%)	55.2(%)	16.7(%)	0.9(%)		
増減	6.1	4.6	-10.3	-0.4	13.8	-4.3	-11.1	1.6	11.3	0.8	-11.2	-0.9		
はじめ	自ら進んで学校のルールを守っている													
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
	事前	38.9(%)	54.6(%)	4.6(%)	1.9(%)	37(%)	54.2(%)	8(%)	0.8(%)	29.3(%)	56.5(%)	13.8(%)	0.4(%)	
	事後	44.4(%)	49.5(%)	4.7(%)	1.4(%)	38.2(%)	54.6(%)	6.4(%)	0.8(%)	26.6(%)	62.2(%)	10.3(%)	0.9(%)	
	増減	5.5	-5.1	0.1	-0.5	1.2	0.4	-1.6	0.0	-2.7	5.7	-3.5	0.5	
	仲間や学校のためになる行動を進んで行おうとしている													
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		
事前	26.3(%)	56.7(%)	16.1(%)	0.9(%)	22.8(%)	54.8(%)	20.8(%)	1.6(%)	20.4(%)	60.2(%)	19(%)	0.4(%)		
事後	32.5(%)	56.3(%)	9.8(%)	1.4(%)	26.2(%)	56.9(%)	13.7(%)	3.2(%)	23.3(%)	62.6(%)	14.1(%)	0(%)		
増減	6.2	-0.4	-6.3	0.5	3.4	2.1	-7.1	1.6	2.9	2.4	-4.9	-0.4		
思いやり	クラスの中に自分の居場所があると思う													
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
	事前	36.1(%)	51.4(%)	10.6(%)	1.9(%)	38.2(%)	51.6(%)	8.6(%)	1.6(%)	26.4(%)	60.8(%)	11.9(%)	0.9(%)	
	事後	40.8(%)	53.4(%)	3.6(%)	2.2(%)	43.9(%)	50.8(%)	4.9(%)	0.4(%)	35(%)	55.8(%)	8.8(%)	0.4(%)	
	増減	4.7	2.0	-7.0	0.3	5.7	-0.8	-3.7	-1.2	8.6	-5.0	-3.1	-0.5	
	困っている人に対して何が出来るか自ら考えて行動しようとしている													
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		
事前	26.7(%)	63.2(%)	9.2(%)	0.9(%)	30.1(%)	52.2(%)	16.5(%)	1.2(%)	22.9(%)	63.2(%)	13.5(%)	0.4(%)		
事後	36(%)	58.4(%)	5.1(%)	0.5(%)	33.2(%)	53.6(%)	11.6(%)	1.6(%)	27.8(%)	61.4(%)	10.3(%)	0.5(%)		
増減	9.3	-4.8	-4.1	-0.4	3.1	1.4	-4.9	0.4	4.9	-1.8	-3.2	0.1		
清潔	季節や場にあった整った身なりで生活しようと心がけている													
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
	事前	44.8(%)	50(%)	4.7(%)	0.5(%)	49.4(%)	44.1(%)	4.9(%)	1.6(%)	37.2(%)	52.9(%)	9(%)	0.9(%)	
	事後	54.7(%)	42(%)	2.4(%)	0.9(%)	51.6(%)	43.2(%)	4.4(%)	0.8(%)	42.6(%)	52.8(%)	4.2(%)	0.4(%)	
	増減	9.9	-8.0	-2.3	0.4	2.2	-0.9	-0.5	-0.8	5.4	-0.1	-4.8	-0.5	
	公共で使う場所が清潔に保たれていると気持ちが良いと感じる													
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		
事前	61.9(%)	35.3(%)	2.8(%)	0(%)	61.5(%)	35.3(%)	2.8(%)	0.4(%)	53.4(%)	40.3(%)	6.3(%)	0(%)		
事後	65.9(%)	31.3(%)	2.3(%)	0.5(%)	65(%)	30.5(%)	4.1(%)	0.4(%)	57.9(%)	39.4(%)	2.7(%)	0(%)		
増減	4.0	-4.0	-0.5	0.5	3.5	-4.8	1.3	0.0	4.5	-0.9	-3.6	0.0		
整然	人の意見や発言は最後までしっかり聴こうと心がけている													
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
	事前	52.1(%)	41(%)	5.5(%)	1.4(%)	48.6(%)	44.2(%)	7.2(%)	0(%)	38.6(%)	53.3(%)	8.1(%)	0(%)	
	事後	57.1(%)	39.2(%)	2.8(%)	0.9(%)	53.8(%)	41.2(%)	4.2(%)	0.8(%)	43.9(%)	52(%)	4.1(%)	0(%)	
	増減	5.0	-1.8	-2.7	-0.5	5.2	-3.0	-3.0	0.8	5.3	-1.3	-4.0	0.0	
	集会や式典は落ち着いた雰囲気の中で行われるものだと思う													
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		
事前	54.4(%)	41.9(%)	2.8(%)	0.9(%)	58.9(%)	38.3(%)	2(%)	0.8(%)	48.2(%)	45.5(%)	6.3(%)	0(%)		
事後	58.2(%)	38.6(%)	2.3(%)	0.9(%)	59.8(%)	36.2(%)	2.8(%)	1.2(%)	53.8(%)	43(%)	3.2(%)	0(%)		
増減	3.8	-3.3	-0.5	0.0	0.9	-2.1	0.8	0.4	5.6	-2.5	-3.1	0.0		

(2) 教師用アンケート結果から

ア プログラムを使ったことで感じられた成果と、プログラムへの感想や意見

実際にプログラムを使用した先生方から、それぞれのプログラムを使用したことで感じられた成果（児童生徒の変容）と、使用した上での感想や意見を聞いたところ、以下のような、多くの感想や意見を得ることができた（表 24）。

表 24 教師用アンケートによるプログラム使用を使ったことで感じられた成果とプログラムへの感想・意見

	プログラムを使ったことで 感じられた成果	プログラムへの感想・意見
笑顔	<ul style="list-style-type: none"> ・学級が楽しい、友達と仲よくなったという声が増えた。 ・学級で子供たちがつながり合い、安心できるようになった。 ・互いの良さを認め合う雰囲気を作り出した。 ・教師の自己開示を意識することができた。 ・子供たちがリラックスしているように感じた。笑顔が増えた。 ・教師の失敗談や苦手なことを話すことで、子どもとの距離が近くなった気がした。 ・少人数で関わり、友達と話す機会が増えた。 ・他者を認め、集団として温かな雰囲気の醸成につながった。 ・小集団で活動することで活躍の場ができ、自信につながった ・自分の言葉で自分のことについて話せる生徒が増えた。 ・言葉で表現するのが苦手な生徒が気持ちを天気で表せた。 ・上級生が自慢の授業を演じることで、個性の発揮につながり、学び合う具体的な姿を下級生に示すことができた。 ・賞は取れなかったが、目標に向かいやり遂げた笑顔が生まれた ・給食の場面で使用し、給食準備の生徒の意識が向上した。 ・毎日の3行日記を活用することで、教室内でも自分のことについて積極的に話すようになった。 ・生徒が自分自身に対し、話しやすくなったと感じる場面があった。 ・地域の方が生徒の様子を話してくれるなど、信頼関係が深まる。 ・スムーズな人間関係づくり、温かな雰囲気作りが効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して意識して指導すると効果的。 ○様々な手立てがあってよかった。 ○新たな子どものつながりができ、人間関係だけでなく、学力アップにもつながったと感じる。 ○時と場を提示することで、子どもは自己表現が上手になっていくと感じた。 ○取り組みやすく、学校の実態に合っていた。 ●「目標を立てて〇〇させる」と書かれていたが、こちらから仕向けるのではなく、自分たちで目標を立てて取り組ませる姿の方がよいと感じた。 ●段階があがるにつれ、指導のポイントや教師の働きかけが抽象的になり、扱いにくくなった。 ●プログラムの内容がハイレベルで、高校の実態に合わない部分がある。 ●楽しくおもしろく挨拶を促させるとよいと感じる・年間を通して意識して指導すると効果的。
活力	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人が、みんなが楽しむにはどうしたらよいかを真剣に考えていた。 ・自ら気づき、行動を起こすようになった。 ・「～していいですか」から「～します」と、自分で何をすべきか考えることができるようになった。 ・自分以外の「他者」意識が高まった。 ・行事の場面で使用し、生徒同士の関わり合いを強くなる結果につながった。 ・学級開きの時に卒業式の時のクラスを振り返っての感想を書かせることで、学級目標決定の際に具体的な意見がたくさん出てきた。 ・授業に対する取り組む姿勢が前向きになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改めてというよりも、今までも日常的に行っていることなので今後も続けていきたい。 ・「つぶやき」をしっかりと聞くことが大切。こうした児童の様子を拾えるアンテナが必要である。 ●教員が意図して意識して進んでみるとすぐに効果は出る。教師次第のプログラムである ●プログラムに具体的な実践例があるとさらに充実すると思われる。 ●そのときだけのプログラムではなく、長期にわたって継続させていく工夫が必要
けじめ	<ul style="list-style-type: none"> ・人の話を聞く姿勢や時間を守るようとする意識が向上した ・自らルールを守ろうという意識が向上した ・互いに声掛けし、良い方向に向かうようになった ・めりはりのある行動ができるようになった。高学年という意識が高まった ・学級目標を具現化する集団になろうという意識が高まった。 ・学校や学級のルールを振り返るよい機会となった。 ・自分たちで話し合っで決めたという意識が働き、ルールを進んで守る姿が多く見られた。 ・集団を意識することで、互いに気遣いをするが増えた。 ・自分たちでルールを作り、守ろうという声があがった ・当たり前前ことを当たり前に行おうという呼びかけが増えた。 ・授業の開始時に黙想を行い、休み時間との切り替えができた ・小さなことでもルールを守れていることを認めることで、進んでルールを守ろうという声が自然に出るようになった。 ・職場体験学習とリンクさせ、社会のルールやマナーについて考えさせる機会となった。 ・学年集会、学級会というプロセスで話し合いを行い、最終的に自分(たち)で判断することにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小1を指導する際の子き指針となった ○何気なく取り組むより、このように意識的に繰り返し取り組むとさらに効果的だと感じた ○ポイントにある、タイムリーに行うことが効果的であり、とても大切だと感じた。 ○日ごろ行っていることが多く、どんどん使えそうな気がした。 ○分かりやすく、子どもの表れもよく見えた。 ○教師がすべきこと、子どもの姿が明確でよい。 ●3つの段階をきちんと区切って指導するのは難しい。複合的に捉えた
思いやり	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている友達に声をかけたり、助けたりする子どもが増えた ・友達の良さを素直に認められる雰囲気ができてきた ・自分も仲間の良さを見つけようという意識が向上した ・学級内のもめ事が減った ・友達から認められ、新しい自分を発見できた児童がいた ・温かい言葉を遣って、優しく伝え合えるようになった ・他者から認められることで、次の行動への意欲付けになった ・周りの頑張りが努力を見ようとする目が育った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に意識して指導することが大切 ○子どものことがよく分かり、個別指導に役立った ○2ヶ月に一度自己を振り返る機会を作ったことで意識が定着した。 ○良い部分を見る目が成長し、生徒の良い面がどんどん分かってきた。見方を変えると「叱る」が減った ●よいこと見つけにおいては、見つける視点が必要になってくる。 ●「良さ」の意味を学年やクラスで児童の実態に合わせて共通理解しておく必要がある。 ●コミュニケーション力を育てるために、人との関わり方も同時に学んでいく必要がある。 ●ステップからジャンプへ生徒を促させて行くには個々の生徒の困り感に即した指導の工夫が必要だと感じた。
清潔	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが落ちていたら拾う、教室を汚さないという意識が向上した ・人から言われる前に清掃を自発的にに行えるようになった。 	
整然	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ落ち着きのある学級になってきた ・チャイム着席において、授業の初めにプログラムを使用し、意識が高まった。 ・学級委員を中心に話し合い、授業に取り組む姿勢が改善された。また、身の回りの環境を整備する様子も多くの生徒で見られ、落ち着いて過ごせるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的に書かれているので実行しやすい ○子どもの姿を段階的に意識して促えることができた。 ●書きぶりが字が多くて平面的である

「プログラムを使ったことで感じられた成果」では、それぞれのプログラムごとに、先生方が感じとった多くの児童生徒の変容が述べられている。その中でも「他者意識の高まり」や、「学級集団の楽しさや質の高まり」について述べられているものが多く、人間関係づくりに視点を当てたプログラムとしての成果が感じられた。

また、プログラムに対する意見についても、「プログラムの内容が抽象的である。具体的な実践例があるとさらに充実する」、「字が多く書きぶりが平面的である」、「三つの段階をきちんと区切って指導することが難しい」、「内容が高等学校の実態に合わないものもある」、「その時だけのプログラムではなく、長期に渡って継続させていく工夫が必要である」、「教師が意図して使うとすぐに効果が出る。教師次第のプログラムである」「すでに実践できている内容も多かったので、特に意識して使っていこうという気持ちは薄かった」、「もともと学級経営上必要なことだったため、すべてプログラムの成果とは言いがたい」など多くの意見をいただいた。今後プログラムの内容を修正していく視点としたい。

イ プログラム使用前と使用後の教師の意識の変容

上記アンケートとは別に、プログラムを使った教師に、使用前と使用後の生徒指導や学級経営に対する考え方の変化について質問したところ以下のような回答を得た。

(ア) 児童生徒との関わり方・接し方について

- ・生徒指導では、必ず共感的に相手の話を聞こうと意識できた。
- ・段階的に指導していくことの必要性が分かった。
- ・今まで教師が怒ってばかりで雰囲気が良くなかったが、自分たちで考え、優しく伝え合うことで学級がとても柔らかい雰囲気になった。
- ・子どもにかける声が優しくなったと思う。
- ・子どもたちの行動をきちんと見ようとする意識が高まった。
- ・生徒に求めてばかりではなく、自分が生徒のために何ができるかを考えて行動することによって、自分の視野と心が広がった。
- ・様々なことに「丁寧さ」を考えるようになった。

(イ) 学級経営等の視点について

- ・一人一人の言動をよく見て、温かい学級の雰囲気を作っていきたいと日常的に意識するようになった。
- ・児童生徒に自分の行動や考え方を振り返る場面を作ることが大切だと感じるようになった。
- ・個人に関することは生徒指導、集団に関することは学級経営という枠組みで考えていたが、六つにグループ分けされたプログラムにより、生徒指導と学級経営に対する視点を整理することができた。
- ・学級経営をしていく中で、気づかぬうちにいろいろなプログラムを行っていたことに気づき、今後は意図的、計画的に使っていきたいと思った。
- ・プログラムを使用後の生徒の変容を見て、自分の指導に自信を持つことができた。
- ・個に視点を当てていくことが結果的に集団を強くすることが分かった。
- ・学年全体で「こういう指導をして、ここをポイントにしよう」という共通理解のよい機会となった。多くの目で子どもを見ていくことの良さを改めて感じた。

このように、プログラムを使用した教師自身にも児童生徒との日常的な関わり方や、接し方、学級経営に対する考え方の変化が見られたのは大きな収穫であった。子供を変えるためには、まず教師の考え方や働きかけが変わることが大前提になるからである。寄せられた意見をプログラムの学校への周知の際にも生かしていきたい。

V 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 静岡県の子童生徒の実態（強みと弱み）を把握できたこと

政令市を除いた県内全ての公立小中高等学校 593 校に依頼した、生徒指導の取組に関するアンケートの分析の結果、県内の小中高等学校には、校種を問わず共通した「強み」や「弱み」があることや、各学校が自信を持って「育っている」とは言い切ることができない児童生徒の姿に共通しているものは「主体性」であること等が分かった。このことは、取材・実践協力校を選定する際や、実際にプログラムを作成する上で、方向性や内容を決定していく場面で大いに役立った。

(2) 研究の仮説の正しさが実感できたこと

本研究は「自尊感情と規範意識を育むための人間関係づくりに意図的に取り組んでいる学校は、問題行動の未然防止に成果を挙げている」という仮説を立てて行った。児童生徒が落ち着いて生活しており、学校として特色ある取組がなされていると判断し訪問した取材協力校では、自尊感情や規範意識を育むための、児童生徒相互の良好な人間関係づくりに対する働きかけや、教師と児童生徒との温かい関わりが日常的に行われていた。また、そこで出会った児童生徒たちは、誰もが明るく生き生きとした表情で学校生活を送っていた。このことから、本研究の仮説は正しかったと実感でき、自信を持って取材協力校の取組をベースとしたプログラムの作成に向かうことができた。

(3) 自尊感情と規範意識を育む人間関係づくりに基づく、児童生徒の内面に働きかける「問題行動の未然防止プログラム」を完成できたこと

教師と児童生徒、児童生徒同士の良好な人間関係づくりを切り口に、児童生徒の「内面」にまで働きかけ、そのことで児童生徒の「表れ」まで変えていく、という考え方でプログラムを作成できたことは大きな成果であるとする。

また、マニュアルや実践事例集ではなく、目指す姿に向かうための手順書として、校種を問わずいつでも、どこでも、誰でも使うことができる汎用性の高いプログラムを作成できたことも、他にはない独自性を持ったプログラムとして提案できるものと考えている。

(4) プログラムの効果や、学校への提案の仕方が明確になったこと

実践協力校 6 校の取組によって、プログラムの使い方や期待できる効果などについて新たな視点を獲得することができた。例えば、プログラムの内容は既に実践していると考えている教師には、「プログラムを基に今までの自分の実践を振り返り、これまで自分が行ってきたことを価値付けたり、段階を意識した、より意図的、計画的な働きかけを増やすきっかけにしたりする」といった使い方の提案ができること。また、プログラムを自分の学校、学年、学級の状態を見立てる手段として使用し、

教師の共通理解の下、足並みを揃えて使っていくことで、プログラムの効果がより高まることなどである。前述のプログラムを使用したことで表れる教師の意識の変容も併せて、プログラムを使用したことでもたらされる効果や、プログラムの有効な活用の仕方などについて学校現場へ啓発していきたい。

2 今後の課題

完成したプログラムをホームページにアップロードし、今後も継続して有効性の検証やプログラムそのものの修正を行っていきたいと考えている。そのためにも、できるだけ多くの学校、先生方に使ってもらい、様々な意見をいただく必要がある。市町教育委員会と連携し、各地区の学校に紹介してもらい、生徒指導の悉皆研修で生徒指導主事・主任に呼びかける等、周知を図る活動を行っていききたい。また、当センターでの各種研修で紹介し、プログラムを選択して使ってもらい、追跡調査をする等、実際に使い、フィードバックしてもらえる方法についても同時に考えていきたい。

また、これまで静岡県教育委員会では、小学校、中学校を対象とした「人間関係づくりプログラム」、高等学校を対象とした「人間関係づくりプログラム（高校生版）」（注3）を発行し、良好な人間関係づくりの構築に努めてきた。これらのプログラムは「ソーシャルスキル」や「アサーションスキル」等「人間関係づくりのためのスキルの獲得」や「温かな人間関係を育む」ことによって、問題行動の未然防止に役立てることを主な目的としているものである。「人間関係づくりプログラム」も、本プログラムも良好な人間関係を育むために働きかけるという点は共通していることから、今後、問題行動の未然防止に向けて、この2つのプログラムをどのように関連させて使っていけばより良い効果が生まれるかを考えていきたい。

【注釈】

注1) 2010年に文部科学省が発行した「生徒指導提要」では、自己指導力という言葉が、自己指導能力という言葉に置き換えられた。

注2) 小学校3年生から、中学校2年生を対象とし、2008年に静岡県教育委員会が発行したプログラム。「構成的グループエンカウンター」、「ソーシャルスキルトレーニング」や「アサーションスキルトレーニング」「ストレスマネジメント」等の実施により、「人間関係づくりのためのスキルの獲得」や「温かな人間関係を育む」ことによって、問題行動の未然防止に役立てることを主な目的とする。

注3) 上記プログラムの高校生版。2013年に静岡県教育委員会が発行した。

【参考文献】

- | | |
|---------------------------------|-----------|
| 文部省「生徒指導資料第20集」 | 1988 |
| 文部科学省「小学校学習指導要領」 | 2008 |
| 文部科学省「小学校学習指導要領」 | 2008 |
| 文部科学省「生徒指導提要」 | 教育図書 2010 |
| 国立教育政策研究所生徒指導リーフ「絆づくり」と「居場所づくり」 | 2012 |

【問題行動未然防止プログラムへのリンク先】

静岡県総合教育センターホームページ (www.center.shizuoka.ed.jp/)

【研究組織】

研究担当所員（平成 24 年度）

人づくり支援課 課長	中村 芳美
生徒指導支援班 班長	伏見 和久
教授	土屋 秋雄
指導主事	山野 良成
指導主事	柿沼いずみ
指導主事	小嶋 久典
実務研修員	近藤 恭章
実務研修員	笠原 敬子

研究担当所員（平成 25 年度）

人づくり支援課 課長	中村 芳美
生徒指導支援班 班長	伏見 和久
教授	土屋 秋雄
指導主事	山野 良成
指導主事	柿沼いずみ
指導主事	小嶋 久典
実務研修員	伊東 大介
実務研修員	大野 説子

研究担当所員（平成 26 年度）

総合支援課小中学校班 班長	操上 俊樹
高校Ⅱ班 班長	小関 雅司
小中学校班指導主事	小嶋 久典
同 指導主事	清水 達夫
同 指導主事	藁科 昌樹
高校Ⅰ班指導主事	鈴木 孝明
高校Ⅱ班指導主事	山野 良成
同 指導主事	山田 正訓
同 指導主事	堀之内育子
同 指導主事	梅原 圭二
同 指導主事	竹内 正明

（平成 25・26 年度）取材・実践協力校

伊東市立南小学校
菊川市立堀之内小学校
長泉町立北中学校
御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校
静岡県立掛川東高等学校
静岡県立磐田西高等学校